

現代トルコにおける宗教と世俗主義

—宗教組織と政教分離をめぐる論争に注目して—

平成22年度入学

参加したフィールドスクール：タイフィールドスクール

調査国：トルコ共和国

西山 愛実

キーワード：トルコ, 政教分離, 世俗主義, 宗教組織

自分の研究テーマについて

報告者は、政治や教育といった公的空間や、巨額な富との関連を理由になされる宗教組織に対する批判を題材として、現代トルコにおける宗教と世俗の関係を研究している。

トルコ共和国は政教分離を国是とし、公の場における宗教の表出を禁止している。教育機関や公職場内でのスカーフ着用 of 禁止に見られるように、個人の信仰へも影響を与える政教分離の思想とその政策は、トルコにおいて社会的な問題の一つとなっている。報告者は、特にタリーカとジェマートという宗教組織に注目し、トルコにおける政教分離の理解を目指す。タリーカとは、イスラームの内面を重視する人々の修業集団であり、共和国建国初期に、社会における潜在能力を懸念され、法律により禁止された。一党政権下での激しい弾圧を受け、タリーカを前身として新たに誕生したのが、ジェマートと呼ばれる宗教組織である。現在、実際には今日まで活動を続けているタリーカと合わせ、ジェマートの政治や経済面での影響力も、人々の注目を集める問題となっている。これまでは、それら宗教組織の具体的な活動や、政教分離や世俗主義等の理念に焦点を当てた研究が展開されてきた。

報告者はそれらの先行研究を土台としながら、今まであまり注目されてこなかった宗教組織をめぐる論争に着目する。宗教組織と政教分離をめぐる議論の過程や変遷を考察することで、トルコ社会および世界各地で問題となっている、世俗主義や政教分離に関する問題の一端を明らかにすることを目的とする。



イスタンブール市内に設置されていた看板

(訳：「差異に敬意を」 注：スカーフ着用の自由化に関する議論をうけたもの)



宗教組織を批判する内容の最新本の一部

フィールドスクールで得られた知見について

フィールドスクールに参加し、特に有意義だったと思う点は大きく分けて2つある。

一つは、宗教者の活動の多様性の実例、及び研究の読み方に関し、知見を得ることができた点である。タイ北部・東北部には、1970年代以降の急激な社会開発を背景とし、宗教修業の枠を越え、環境保護、農業、医療などの問題に取り組む僧侶たちが存在する。今回のフィールドスクールではこのような活動に携わったある僧侶の関係者、チェンマイ大学の学生たちに、一部の先行研究で主張されている、近年の開発変化に伴う僧侶の社会活動の転換に関する聞き取りを行った。彼らの話では研究に反する指摘がなされ、報告者の想像に反した意見が得られるという結果になった。このように、先行研究との差異により宗教実践者の活動の多様性が確認されたことに加え、無意識の内に、自身が先行研究を鵜呑みにし

ていたことに気づき、研究の読み方を反省するよい機会となった。

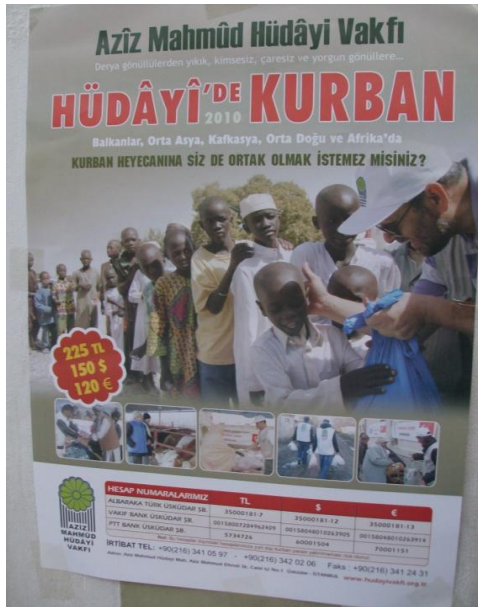
もう一つは、日常では知り合うことのない様々な人たちと出会い、自身の研究の意味を振り返るきっかけを得たという点である。人々の生活を改善するため、人権、犯罪、労働といった問題に取り組むタイの方々、NGO 職員、また、報告者の研究とは異なる地域・対象を扱う ASAFAS 院生たちと交流を持ったことは、報告者にとって非常に新鮮な体験となった。短期間ではあったが彼らとの出会いを通し、今まで疑問に思うことの少なかった、自身の研究の意味について考え直すきっかけを得ることができた。

フィールドスクールで学んだことをどのように研究テーマにいかせるか？

フィールドスクールで得られた知見をもとに、以下の2点に注意しながら研究テーマを深めていきたい。

一つ目は、対象の捉え方という点である。タイの事例からは、宗教者の実践の方法は個人によってそれぞれ異なり、多様性に富むことが確認された。そこから、彼らの活動を理解するには、個人の背景や地域といった環境が重要であることがわかった。これを受けて今後は、対象である宗教組織の実態に着目すると同時に、その背後で何がおこっているのか、社会と対象がどのようなつながりを有しているかに注意して研究を行いたい。

二つ目には、研究の意義という点が挙げられる。フィールドスクールでの出会いを通し、研究と実務の関わり、研究のあり方について考えるようになった。今後は研究対象をトルコ社会の中で捉えるだけでなく、他地域での宗教と世俗に関する問題についても学ぶことで、広い文脈における本研究の位置付けも意識するようになりたい。



あるタリーカ関連組織による広報物

(注：犠牲祭での寄付を募るためのポスター。国外へも活動を展開している)